

平成 22 年 6 月 28 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：197604444

研究課題名 (和文) 東北地方における伝統的・文化的建造物のコンバージョンに関する研究

研究課題名 (英文) A study on conversion of historic and established buildings in the Tohoku region

研究代表者

加治 大輔 (DAISUKE KAJI)

大阪芸術大学・芸術学部・准教授

研究者番号：00292251

研究成果の概要 (和文)：

本研究の成果のひとつは、宮城県における800件以上のコンバージョンのデータベース作成であった。そして、データベースから研究目的をふまえて事例を抽出し、他県の事例も含めて現地調査やアンケート調査を行った結果、建物そのものの「公開」を主たる用途とする歴史的・文化的建造物においては、独創的な短期的催事が重要であること、建造物の意匠や歴史に結び付けられている催事があることが判明した。この他に「徒歩圏内での施設連携」「移築」「施設従事者の配置計画」など、活用方策に関わる複数の視点が得られた。

研究成果の概要 (英文)：

We made the database on conversion of historic and established buildings in the Miyagi Prefecture. We gathered resources on the cases in the Tohoku region and conducted some local hearings. Results are as follows: A short-term special event is important for historic and established buildings opened public. Some of those events are characterized by the design or history of the buildings. There are other key points, such as collaboration of institutions in walking distance, relocation of building, staff positioning, and so on.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19年度	1,200,000	0	1,200,000
20年度	900,000	270,000	1,170,000
21年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	510,000	3,410,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：建造物保存活用

1. 研究開始当初の背景

フロー重視からストック活用へ価値の転換が求められようになり、老朽化した建物が、用途変更や改修工事を経て積極的に再生・活用されるようになってきた。地域で評価が高い歴史的・文化的建造物にたいしても、コンバージョン（用途変更）がひとつの建物保存方法であることが認識され、「保存か、解体か」という二者択一ではない方向で保存に活路が見出されるようになってきた。歴史的・文化的建造物の積極的活用は、建物単体の問題にとどまらず、景観や観光に寄与するため、地域計画においても重要なものである。

しかし、申請者が活動してきた東北地方においては、コンバージョンがなされた建造物について、地域計画や利用なども視野に入れて体系的研究がなされてこなかった。

そこで、このような背景をもとに、主に宮城県をはじめ東北6県に立地する歴史的・文化的建造物（登録文化財の建造物を含む）のコンバージョンによる再生について調査、分析するに至った。

2. 研究の目的

研究の目的として特に以下の2点に焦点をあてた。一つは「どの建造物に、どのようなコンバージョンが行われたのか」その実態を把握してデータベースを作成することであった。もう一つは、コンバージョンに伴う問題点と成功例の要因などを分析することであった。

また、用途変更がなされてから時間が経過した建造物について、現在に至る管理・運営上の問題の把握も意図した。

以上のように本研究においては、コンバージョンという視点から、地方における今後の歴史的・文化的建造物の「再生・保存・活用方法」と「まちづくり（地域計画）」の双方に有益な知見を得られると考えた。

3. 研究の方法

最初に宮城県の歴史的・文化的建造物について「建築名・用途」「文化財・受賞暦」「竣工年」「設計者」「所在地」などをデータとするリストを作成した。

次にこのデータベースから、本研究の目的に合致したT市内の事例をとりあげ、利用状況の把握や施設関係者へのヒアリング調査など、現地調査を実施した。

これらの作業から「過去の用途や建築意匠を意識した利用方法は、歴史的・文化的建造物に固有の重要なコンバージョンのあり方である」という考えに至った。そこで研究の

後半では、その実態を把握するために「現用途と施設概要」「期間限定の催事の内容」「施設利用者（来館者数）」について資料収集を行った。

4. 研究成果

研究成果の一つは、研究代表者が約10年間在住していた宮城県の歴史的・文化的建造物についてのデータベースの作成であった。まず日本建築学会編『日本近代建築史総覧』、『日本の建築』、新建築社発行『建築ガイドブック』『新建築』の情報が反映された『宮城の建築と街並み』（日本建築士会発行、2001年、正誤表付）を参照した。最初に本書の3種類のデータ（写真解説、一覧、正誤表）を統合し、建造物リストの骨格を作成した。

次に自治体の統廃合情報にもとづき、データを修正した。そして800件を超える建造物のデータについて調査し、移築やコンバージョンが発見されたものについて、公的機関の情報と照合した上でデータを記録した。

また「国宝・有形文化財」「登録有形文化財」「県指定文化財」「日本建築学会賞」「東北建築賞」のデータを追加した。

こうしたデータベースの作成は研究成果の一部であるが、その過程で新たな発見があった。それは、歴史的・文化的建物のコンバージョンを論じる上で「保存公開建物」という造語が必要であることが判明したことである。例えば、ある民家に人が住まなくなり、「保存されるとともに公開されること」が主用途（目的）になると、それはコンバージョンの一つである。本研究では、こうした考えのもとに「保存公開建物」という造語を使用した。表1が宮城県の歴史的・文化的建造物のコンバージョンのバリエーションを示したものである。この表からも「保存公開建物」という概念がコンバージョンを論じる上で軽視出来ないことがわかる。

さて、データベース作成の過程でT市T町における複数の事例に着目した。公共交通の利便性が良好とはいえない地域であるにも関わらず、コンバージョンを通して建造物が有効に活用されているように思われたからである。そこで、この地域の活用の要点（問題や工夫）を抽出することを目的として、利用状況の把握や施設所有者、管理者へのヒアリングなど、現地調査を実施した。

調査の結果、この地域においては、コンバージョンに加えて「独創的な短期的催事の創出」「徒歩圏内にある他施設との連携」「施設従事者の配置計画」などに注意が払われていることが判明した。

例えば、「独創的な短期的催事の創出」については、T 町における旧小学校校舎（重要文化財）の例が典型的である。現在の用途は地域資料館となっており、地域のお祭の道具や旧小学校の歴史資料が常設展示されている。このコンバージョンの短い表記は、『小学校』から『資料館』への転用であるが、実際には常設の展示にとどまらず、春季の土日・祝日などに昭和期の給食を旧教室内で来館者に食してもらって体験型の催事を行っている。それは、バスで訪れる団体観光客にも対応可能な規模であり、昭和期を知る世代に特に好評であるとのことであった。これは、家具を含めて旧校舎の教室の様子を当時のように維持されており、短期的な催事が建造物の意匠と歴史に合致した典型的な事例であるといえよう。来館者の評価や他県の類似建造物に与えた影響から、こうした催事は有効であると考えられる。

「徒歩圏内にある他施設との連携」については、T 町の旧市街地の場合、本研究で対象となるような複数の建造物を中心施設から徒歩 1km 内に配し、来館者のために総長約 0.7km と 1.3km の歩行回遊ルートが計画されている。こうした催事や施設連携は、同市の別地区に立地する、文化人の生家と資料館の関係にも見られた。

ところで、T 市 T 町から 6km 以上離れている同市内の指定文化財は車で移動が必要な場所で孤立しており、来館者数に顕著な差があるとのことであった。こうした差は、岩手県の T 市における事例でも生じていた。

施設従事者は、コストがかかる部分であり、例えば「施設利用者数の少ない時期に運営人数を減らす」「他の業務と兼担する」「近隣の建物に業務委託する（例えば飲食店の厨房）」など、施設従事者の配置に努力や工夫が見られた。

さらに前述の事例調査からもわかるように、短期的催事が活用の要素となることがある。また催事についての調査が歴史的・文化的建造物の用途を再定義していく上で、重要な視点になる可能性がある。

そこで以上のデータベース作成作業、事例調査、他県のプレ調査を踏まえて行ったのが「現用途」と「催事」「来館者数」に関する資料収集であった。前述の作業から 6 県で 99 件を候補にあげ、61 件の建造物について資料を収集した。

分析の結果、「催事の有無」に差がみられた。また催事の有無と月別来館者数に相関がみられる事例が複数あった。

催事の内容については、地域民話の語り、茶会、華道、もの作り体験、企画展覧会、音楽会など多様であったが、歴史意匠という視

点においては、催事の志向は「a. 地域や建物の歴史、建築意匠に密接に関わるもの」「b. 殆ど関係がないもの（建物や地域に関係がないコンサートや映画上映など）」に分けられ、区分が曖昧なものとして「c. 前二者の間を指すもの（例えば、古民家における茶会のように建物の意匠と違和感が生じにくいもの）」がある。表 2 は a と c の一例である。

民営の建造物において、上記に該当する独創性が高い催事も散見されたが、建造物の文化的な公開のあり方として考察に値する問題をはらんでいる。

また冬季に来館者数がピークの月の約 1/50 以下になるなど、多くの事例で季節による差が目立つ一方で、「雪降ろし体験」や「年末年始の祭」を冬季の催事にするなど、冬季の運営に工夫をしている事例も見られた。

施設連携と移築の関係については、岩手県 T 村や M 村のように「積極的に移築を行い、新たな群を形成する方向」があり、これらは、当初の敷地での保存に努めている宮城県 T 町（平成 19 年度調査）とは対極にあたるもので、活用時の「移築」にたいする価値観は分かれている。施設連携は活用の有効な方法であるため、こうした移築もコンバージョンの要点の一つである。

表 1 宮城県におけるコンバージョンの種類

過去の用途	現用途
住宅（武家）	保存公開建物
住宅（武家）	喫茶店
住宅（農家）	保存公開建物
住宅（農家）	宿泊施設
住宅（農家）	資料館
住宅（農家）→寺子屋	保存公開建物
住宅（農家）	飲食店
住宅（商家）、店蔵	保存公開建物
住宅（商家）、店蔵	資料館
住宅（商家）、酒蔵	地域交流施設
住宅（その他）	旅館
住宅（その他）	保存公開建物
住宅（その他）	資料館
住宅（その他）	病院
藩施設（別邸）	飲食店
藩施設（別邸）	喫茶店
藩施設（学問所）	保存公開建物
本陣	保存公開建物
軍事施設（兵舎）	資料館
大学図書館	資料館
中学校	講堂
中学校	図書館
小学校	資料館
小学校	幼稚園
小学校	地域交流施設
小学校	図書館
小学校	工場
小学校講堂	中学校体育館
小学校講堂	武道館
警察所	資料館

警察所	事務所
裁判所	記念館
役場	工場
郵便局	倉庫
郵便局	住宅
郵便局	事務所
蔵	地域交流施設（工房）
酒蔵	資料館
酒蔵	飲食店
酒蔵	店舗
米蔵	展示施設
米蔵	資料館
教会	保存公開建物
教会	幼稚園
映画館	倉庫
事務所	住宅
事務所	郵便局
事務所	病院
事務所	図書館
店舗	住宅
店舗	駅舎
病院	住宅
病院	店舗
駅舎 → 診療所	福祉施設

・建築年代：明治23年（主屋）	本住宅の生活用品や美術品等の企画展 ・お茶会 ・本住宅に関する食品の食事会
事例8 ・過去の用途：住宅（農家） ・現在の用途：保存公開建物 ・建築年代：18世紀後半	・児童を対象にした体験授業 （天秤や蓑といった昔の道具体験、昔の遊び体験）
事例9 ・過去の用途：住宅（商家） ・現在の用途：保存公開建物 ・建築年代：明治29年	・お茶会 ・地域に関わる俳句の会 ・民話の語り
事例10 ・過去の用途：住宅（商家） ・現在の用途：保存公開建物 ・建築年代：文久元年（主屋）	・お月見、節句、正月など節目に合わせての伝統的行事
・ ・ ・	・ ・ ・

（事例によっては、映画上映会やコンサートなど歴史や建造物の意匠に関係がない催事も行われている。）

表2 催事の例

建造物の概要 (用途と歴史等)	催事の概要
事例1 ・過去の用途：小学校 ・現在：保存公開建物、資料館 ・竣工：明治21年	・当時の様子を維持した教室内で昭和期の学校給食体験
事例2 ・過去の用途：皇室別邸 ・現在の用途：保存公開建物 資料館 ・建築年代：明治40年	・当時の洋装の試着会 ・近代建造物の資料展示
事例3 ・過去の用途：住宅（農家） ・現在の用途：保存公開建物 ・建築年代：18世紀半ば	・方言による昔遊び ・民話の読みきかせ
事例4 ・過去の用途：病院 ・現在の用途：資料館 ・建築年代：明治11年	・建造物にゆかりのある人物についての企画展 ・昔の灯りや暖房器具の企画展
事例5 ・過去の用途：住宅（農家） ・現在の用途：保存公開建物 ・建築年代：18世紀半ば	・伝統的な地域の踊り（県指定無形文化財）の公演 ・伝統的な地域の踊り（市指定無形文化財）の公演
事例6 ・過去の用途：住宅（農家） ・現在の用途：保存公開建物 ・建築年代：19世紀半ば	・地域の神楽（県指定無形文化財）の公演
事例7 ・過去の用途：住宅（その他） ・現在の用途：保存公開建物	・年間を5つの時期に分け、その時期にちなんだ

5. 主な発表論文等

〔その他〕

データベースの作成（個人情報、民間の営利に関わる催事計画も含むため、基本的に公開しないが、文部科学省の求めに応じて提出する）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加治大輔 (DAISUKE KAJI)
大阪芸術大学・芸術学部・准教授
研究者番号：00292251

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：